

審 議 結 果

審議会等名称

神奈川県統計報告調整審議会

開催日時

令和4年9月21日（水曜日）10時00分から11時30分

開催場所

かながわ県民センター301会議室

出席者【会長・副会長等】

伊藤匡美【会長】、土屋隆裕【副会長】、
居城琢、新瀧健一、関谷正美、中村健、平湯直子、山北奈穂子

次回開催予定日

未定

所属名、担当者名

統計センター企画分析課、中野

掲載形式

議事録

議事概要とした理由

審議経過

【諮問案件「ねんりんピックかながわ2022に関する調査」】

(伊藤会長) スポーツ局ねんりんピック課が実施を予定しております諮問案件「ねんりんピックかながわ2022に関する調査」について審議します。それでは、この調査について諮問依頼課から説明をお願いします。

<ねんりんピック課から調査内容を説明>

(伊藤会長) ありがとうございます。ただいま、説明のありました調査内容につきまして、ご質問・ご意見等ありましたら発言をお願いします。

(平湯委員) まず調査の方法について確認させていただきたいのですが、一般来場者は電子回答があり、大会参加者はなしとなっているのは、どういった理由からでしょうか。

(ねんりんピック課) 大会参加者につきましては、参加者として1年前から参加する用意をしていてアンケートにも答える意思が強い方、さらに60歳以上を参加対象としておりますので、どちらかという電子よりは紙の方が回答に慣れていると考え、紙のみとしております。

一方で、一般来場者というのは高齢者の方だけではなく、例えば山下公園のイベントなどには若年層も多くいらっしゃるの電子回答にもかなり慣れている方が多いと思われま。また、回収数を確保するために、紙だけでなくより多くの手段を揃えるため、一般来場者のみ電子回答を設けています。

(平湯委員) 年齢により電子回答より紙という考えは分かるのですが、「大会に参加する意思がある」と「アンケートに回答する意思がある」は同じではないと思ひます。2019年の和歌山大会のアンケート結果を見ますと電子回答はなかったようですが、回収率を考えますと、大会参加者にも紙だけではなく電子回答の導入も検討されてもよかつたのではと思ひました。

変わります、経費の概算にはどういった要素が入っているのでしょうか。先ほどのご説明の際に、調査員はボランティアとお伺ひしましたが、予算内訳を教えてくださいませんか。

(ねんりんピック課) 予算の内訳ですが、総額262万円の内訳について説明いたします。一番大きなところとしまして「調査票の集計と集計結果に基づいた経済波及効果の推計」について238万円を見込んでおります。「調査票の印刷」については18万円、さらに調査票の回収先として「回収箱の作製」に6万円を見込んでおり、総額で262万円となります。

(新瀧委員) 今の平湯委員からのご質問に関連するのですが、継続性、過去のねんりんピックの経済波及効果と比較をしなければいけないので、基本的な視点は前回以前と変わっていないと認識しています。先ほど平湯委員からご指摘のあった調査方法の一部変更以外に、大きな変更点というのはござひますか。

(ねんりんピック課) 前回から大きく変更した点としては、イベント会場と競技大会の会場と大きく分けて2つの会場があるのですが、前回大会までは競技大会への一般来場者へのアンケートの配布・回収は行っていませんでした。競技に参加する方だけではなく、見に来ていただける方ももちろんいらっしゃるの、その部分についてアンケートを配布・回収させていただくところは今回付加しているポイントです。そこが一つ、和歌山大会より変わった点です。

(新瀧委員) 今までもあったけれど捕捉できなかったところを捕捉するという理解でよいでしょうか。

(ねんりんピック課) はい。

(伊藤会長) 一つ確認させていただきたいのですが、ねんりんピックは各県で持ち回りですよ。前回の和歌山県の調査、今回の調査、次回はまた違う県になりますよね。調査内容を連動させる必要はあるのでしょうか。

(ねんりんピック課) 連動性については、特に法的、あるいは厚労省、他の主催者などから連動性

を求められているという具体的なものはありません。ですので、あくまで神奈川大会として何が費用効果として高いのかという点に着目して実施する必要があります。連動性はある程度は必要かもしれないですが、完全には連動させなくてよいと考えていて、和歌山県の調査から質問内容も大きく変更しているところもございます。

(伊藤会長) 神奈川は神奈川なりにオリジナルの質問を置いたりして、神奈川のためになる調査をしたいということですね。

(ねんりんピック課) その通りです。

(中村委員) 母集団の大きさについて、一般来場者の数は実際にカウントするのでしょうか。経済波及効果を出すのに、母集団の大きさで全然違ってくるので、どのように把握するのかなと思いました。

(ねんりんピック課) 60万人の把握の仕方ですが、場所ごとに把握の仕方は変わってくると思います。一番地道な方法としましては、カウンターで実人数を把握することになりますが、これは山下公園等、人の出入りがかなり多いところになります。音楽文化祭等については入場者数が限られていますので、パンフレットの配布数や、前もっての予約者の名簿で把握している人数、そういったものを一つ一つ積み上げて行って、60万人というところになるということと、和歌山大会でのトータルでの人数が50万人強といったところですので、60万人というのは今の見込みの数字ですが、概ね現実的な数字であるのかなと考えています。

(中村委員) 競技会ですので、天候に左右されるのかなと思います。経済波及効果を出すときにかなり違ってきますよね。

(ねんりんピック課) 今、仰ったように、雨が降った場合というのは、経済波及効果が減る大きな理由になります。もちろん、和歌山大会より減ってしまうのは残念なことです。屋外イベントもありますし、屋外の交流大会や競技大会も多いです。

(伊藤会長) 前回はコロナの影響はなかったのでしょうか。

(ねんりんピック課) 前回の和歌山大会は2019年ですのでコロナ前でした。その次に予定していた2020年の岐阜大会はコロナの影響で2021年に延期しましたが、2021年にもコロナが収束しなかったことから中止となっております。前回大会の2019年の和歌山大会からで2年置いてこの神奈川大会となり、3年ぶりの開催になります。

(中村委員) 10ページの来場者アンケートで、質問1(2)の性別について「男」、「女」とあるのですが、最近の調査では「その他」あるいは「答えたくない」と入れることが多いと思いますが、どうでしょうか。経済波及効果とは関係がないのですが、これを見て答えたくないと思う方もいるかもしれないと思いました。

細かいことですが、質問1(3)の居住地について、市町村名や都道府県名を書く欄がありますが、一般来場者も高齢者が多いと思います。書くスペースがちょっと小さいので、もう少し広くとっていただかないと、実際に読み取って入力する人が困るのではないかなと思いました。

質問4(1)で今日参加したものの感想を「1 大変良い」～「5 良くない」で答えることが少し気になります。もう少し適切な言葉があるのではないかなと思いました。行動変容を期待しているのであれば、例えば「大いに感動した」「私もやってみたくなった」などの選択肢があってもいいのではないかなと思います。

(ねんりんピック課) まず、性別について、スポーツをやる観点から男女別に分けて考えていたことがアンケートにも出てしまっていました。「答えたくない」等の選択肢について検討したいと思います。

(伊藤会長) 県の方針もあると思いますので、お持ち帰りになって検討していただく方がよろしいかなと思います。世界的な方向としては(「答えたくない」等)入っています。

質問4(1)の感想の選択肢についてはいかがでしょうか。

(ねんりんピック課) 今挙げていただいたような選択肢も有効かと思いますが、個々の感想を同じ観点の中で測りたいと考えております。「大いに感動した」等の受け止め方は人それぞれかと思っておりますので、誰でも答えやすいような平易な言葉として、「良い」「普通」等とさせていただいたところです。

(中村委員) 例えば演技であれば「感動した」等になるのかなと思います。(「良い」等は)表面的というか、実際にすぐ答えられるのかなと思いました。

(ねんりんピック課) 色々なことをこの中でやっているのですが、演技や競技であれば「感動した」というのもあると思うのですが、例えば、未病の改善を体験するといったところでは「自分の健康に有意義であった」等になるなど、演技を見るのと健康ブースを体験するのでは表現の仕方が違ってくるのかなと思います。どこに行かれた方でも一旦は答えられるようにという趣旨もあって、平易な表現にさせていただきたいと考えております。ご意見はもっともだと思うのですが、スペースの関係もございまして、すみません。

(中村委員) 質問7「大会広報についてお尋ねします。どの取組が有効であると思われましたか。」ということですが、一般のお客様に聞くことではないのかなと思いました。質問2で把握できるかと思えます。何によって知ったか、と一緒にすよね。一般の人に広報の手法はどれが良いかを聞いてもあまり意味がなくて、一般のお客様が回答する時は自分が何を媒体として「ねんりんピックかながわ2022」を知ったか、これが分かればどこに広報すればよいのかも分かるので、質問7はいらないのかなと思いました。

(ねんりんピック課) 質問7について、質問2と表現が近いところがあるのですが、実は県民ニーズ調査でねんりんピックに関しての同じような問いを県民の皆様にお問い合わせいまして、ねんり

んピックが終わってから、大会前の問いに対しての答え合わせのようなものがないかというのがあって、それをこのねりんピックの調査の中でさせていただきたいというような趣旨で質問7は作らせていただいています。質問2との差異としては、質問2はどういう媒体がきっかけで大会を知っていただいたかということと、質問7は一般来場者の方がどの媒体が有効に思ったかということで、差異を設けさせていただいております。

(中村委員) 質問7のスペースは他のことに使った方がよろしいのではないかと思います。一般の人に取り組みが有効であるかを聞いても意味がないと思います。適切な回答が得られるとは限らないことからです。県民ニーズ調査でも同じ聞き方をしているのかもしれませんが、一般の人に聞く質問ではないと思います。広報の専門家に聞くのであれば良いと思います。

(ねりんピック課) 質問2は自分が実際に何で知ったか、質問7はもっとこんな広報があったらよかったのではということをお話していただけないかと思っています。一般の方々がお話のところで知りえるのかということを知りたい、私たちは主にこういう方法でやってきましたが、実際に会場に来てイベントを見た方がこんな方法だったらもっと大会の広報ができたのではないかと、質問7で、今回の大会自体はこれで終わってしまい、ねりんピック課もなくなってしまうのですが、この成果というのは他のところにも引き継がれるものであって、ねりんピックではないですが、他の色々なイベント等を周知するにあたり、何が有効であったかというのを後追いで聞いておきたいという強い意思がございます。このスペースで他に聞けることがあるのではないかと、大会広報については、ねりんピックの認知度は非常に少ないのではという課題があり、実際に認知度が低いのですが、それをそのまま終わりにしないで、どうすればもっとよかったのかという、ささいなきっかけでしかないですが、今後同じようなことをやる際に引き継げるのかなということなので、質問7はぜひ聞いておきたいと思っております。

(中村委員) 他の調査では絶対にお客様にこういうことは聞きません。質問2のように、何をもちが知ったか、あるいは、どこで知ったかという聞き方をし、実際にどういう行動をしたかを把握します。ここで聞いているのは考えさせているわけですね。実際に自分はSNSで知ったけれど他にどういうものがあつたらよかったのか、というのを考えさせています。そうすると、おそらくここで止まってしまって、それ以降は回答しなくても出すのをやめた、ということが増えてしまうのではないかと思います。質問2は選択肢として言葉が違うので、そこを調整して補えば、質問7で聞こうとしたことは充分得られると思います。要望を出された部署と相談をされた方が良いと思います。

(伊藤会長) 色々な所との間で板挟みになって苦しい状況かもしれませんが、質問7は、有効な回答が得られるためには、選択肢1～5をすべて見た人が答えないと意味がない質問になっていると思います。体験会の開催も知っているし、イベントでグッズを配布しているところも見た、あるいはもらった、フラッグやバナーで飾っているのを見た、動画を活用したPRも見た、SNSによる広報も見ている、このように全部そろっている人がある程度いて初めてどれが有効だったか答えられる質問なのです。例えば、選択肢の「7 分からない」や「8 特になし」の回答があつたら、あまり意味がない質問ですね。そうすると、少しハードルが高い質問なのかなと

思います。おそらく、ねんりんピックを見に来る10代や20代の方は少ないと思われるので、そういったところにSNSがどうかというのを聞いたとして、このねんりんピックの広報が他に流用できるね、というのは苦しいように思います。よろしければ、お持ち帰りになって、シニアの方が答える質問、調査票だということを少しお考えいただくと良いのかなと思います。いかがでしょうか。

(ねんりんピック課) 承知いたしました。

(伊藤会長) アンケートはこれが原票となるのでしょうか。この裏表はそのままでしょうか。60代から80代の方にとっては、細かすぎて読みづらいのではないかと思います。スポーツをしている方は眼鏡を持っていない可能性もありますし、そのあたりをご理解いただけたらと思いました。

(新瀧委員) 質問2で、前回2割近い回答があった「友人・知人」という選択肢を今回は削除されています。おそらくこの「友人・知人」と答えた方は、大会に参加する人から直接聞いて「見に来てね」と言われて来た人が2割くらいいらっしゃると思うのですが、2割くらいある選択肢を削除されたのはなぜなのかなと思いました。

(ねんりんピック課) 「友人・知人」を削除した理由は、ねんりんピックを知った「媒体」「コミュニケーションツール」に絞って選択肢を作成したため、「友人・知人」という「人」は削除しております。質問の意図として、広報ツールのみを聞きたかったのでこのようにしています。

(伊藤会長) 無理があるのではないかと思います。70代や80代の方の多くの方がLINEを使ったりYouTubeで発信したりするのでしょうか。おそらく、ねんりんピックについては、友人で、口コミで、ネットワークで集客するのが有効な広報ですよ、というのが分析結果になってくるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

(ねんりんピック課) おっしゃるとおりだと思いますので、選択肢を足す方向で検討したいと思いません。

(平湯委員) 先ほどの伊藤会長のお話の続きになりますが、一般来場者のアンケート用紙はスペースがあまりないようです。1枚におさめないといけないのでしょうか。大会参加者の方は多少スペースがあります。また、選択肢は縦に並んでいる方が回答しやすいように思います。どの選択肢があるかが見やすいと回答しやすいですし、かつ、回答される方がご高齢の方が多いということで、もう少し見やすい丁寧な調査票を作ることが、大事ではないでしょうか。

(ねんりんピック課) 前回大会と同じような形ということで、1枚に縛られていたところがあると思います。回答する側にとっても1枚で済ませた方がコンパクトで答えやすいのではないかと考えてこのような形にしているのですが、一方で、細かすぎて見えないということもあると思いますので、A3にした方が良いでしょうか。

(中村委員) 紙で回答するなら、A3が良いのではないのでしょうか。

(伊藤会長) A3の裏表を使ってもよいと思います。

(ねんりんピック課) アンケートについて私たちもよく分かっていないところがあります。1枚の方が答えやすいと思うのですが、A3であっても答えてもらいやすいのでしょうか。

(伊藤会長) 読みづらいものには答えてもらえない可能性があるので、A3の方が良いのではないのでしょうか。

(関谷委員) あまり大きくなると、書いてもらう台が必要になります。これは調査員が直接配って回答を依頼するのですよね。

(ねんりんピック課) はい、お声がけをします。

(関谷委員) そうすると、回答していただくのを(調査員が)横で待つという形になりますよね。そうであれば、こういったA4で1枚の方が調査員としては回答してもらいやすいですし、回答する側も少ない方が回答しやすいと思います。年配の方ばかりではなくて、若い人も回答するのですよね。

(ねんりんピック課) はい、大会参加者はもちろん60歳以上ですが、例えば伊勢原市で剣道の交流大会があります、といった場合に、一般来場者は必ずしも高齢者ばかりではないです。ねんりんピックという言葉自体を知っている人は高齢者が多く、また興味をお持ちなので、来場者も高齢者が多くなることは予想されますが、競技会そのものではなく、それをきっかけに市の施策や観光・物産を広めることもやりたいので、市の色々な方たちに来ていただきたいというPRはしていきます。ですので、家族連れ、子ども連れといった若年層も、週末ですので来ていただけるのかなと思っています。山下公園でもイベントをやりますが、そこは家族連れもたくさんいらっしゃるので、年齢層が上の方に偏るかということ、そこまでは偏らないのではないかと思います。

(関谷委員) 調査員が配ることを考えると、大きいと大変なのかなと思います。

(土屋副会長) 紙で答えるのが高齢者で、スマートフォンで答えるのは若い来場者と考え、高齢者にとってはA3あるいはB4にさせていただいた方が良いのかなと思います。今の調査票は印象として詰め込みすぎだと思うので、未回答が多くなるかもしれないと思いました。A3あるいはB4の1枚にさせていただいて、ただ、半分に折りますと最後の4ページ目を見落とす可能性がありますので、配慮いただければと思います。

(ねんりんピック課) アンケート用紙の大きさについて、検討させていただきます。

(伊藤会長) 一般来場者アンケートの質問6～8について、紙ベースのものと、電子申請システムを

利用したオンラインのものと、文言が微妙に違ってしますので、こちらを揃えるようにした方がよろしいのではないかと思います。

質問9（2）について、大会参加者と共通ですが、「どのような情報があったら、スポーツやアクティビティを実際にやってみたいと思いますか」という問いについて、「1 楽しみ方の情報」は非常に幅広いのに対し、「2 用具の貸し出し」「3 駅までの送迎」は逆に具体的過ぎるように思います。

（中村委員）質問と、回答の選択肢に少しずれがあると思います。質問は「どのような情報があったら」となっていて、2や3は「用具の貸し出し」や「駅までの送迎」の情報の有無を指しているのか、それとも、実際の「用具の貸し出し」や「駅までの送迎」そのものの有無を指しているのか、どちらでしょうか。「1 楽しみ方の情報」は、例えば、そのアクティビティの指導者のいる施設等、楽しめる場所の情報など、もう少し分かりやすいと良いと思いました。

（伊藤会長）少し再考いただけますでしょうか。

もう1点、居城委員がお詳しいかと思いますが、諮問案件-10頁の間6（2）で、経済波及効果の推計について、宿泊費の選択肢の幅が1万円刻みですが、大丈夫でしょうか。選択肢「4 1万円以上～2万円未満」、「5 2万円以上～3万円未満」とありますが、1万円刻みが相場ですか。

（居城委員）通常、観光動態などを見ると、宿泊費の平均は25,000～28,000円程度で、感覚としては3万円程度という印象。3万円より下の部分をどれくらいの幅で把握したいかということになります。

（伊藤会長）素人の考えですが、選択肢「1万円以上～2万円未満」を、「1万円以上～1万5千円未満」、「1万5千円以上～2万円未満」とした方が、より実態が分かりやすいのかなと思ったのですが、どうでしょうか。

特にこだわりはないので良いのですが、経済波及効果が、粗く出るか、細かく出るかの違いではないでしょうか。新瀧委員、いかがでしょうか。

（新瀧委員）これまでの自分の経験を踏まえると、この辺のことではあまり変わらない。例えば、安い金額を大きな幅で刻んだ場合には影響が出てくるが、高い金額を細かく刻んでもあまり意味がないと思います。

（伊藤会長）では、良いです。

（土屋副会長）ダイレクトに金額を聞かないで、選択肢を用意する理由について、なぜなのでしょう

（ねんりんピック課）金額の場合、考える時間が必要になってしまうが、選択肢の場合、端的に答えられると考えてこうしています。

(新瀧委員) 金額を直接聞くと、桁違いの回答があったりして、それを桁違いかそうでないかを判断する必要が出てくる。そのため、選択肢で回答してもらう方が確実かと思います。

(土屋副会長) 選択肢の場合、どういうスケールを用意するかということになります。小さい方のスケールを用意すれば、金額は小さくなり、大きい方のスケールを用意すれば、金額は大きくなります。幅をどう作っていくか、実態にスケールを合わせる必要があります。先ほどの25,000円という話もありましたが、それくらいが平均額になりますと、下の方のスケールはあるが、もう少し上の方のスケールを用意してもよいかもしいないと思いました。

(平湯委員) 前回の和歌山大会の調査結果を見ますと、県外参加者の大会参加のための宿泊費については、3～5万円が40%を占めており、1万円未満が数%となっており、この選択肢で良いのかという気がします。

(伊藤会長) 和歌山は宿泊費がそんなに高いのでしょうか。

(中村委員) これは、おそらく宿泊日数を聞いていないからです。

(伊藤会長) 宿泊日数は聞いた方が良いかもしれない。和歌山県は不便なので、競技の前日から前泊する等は可能性として考えられますよね。

(居城委員) ただ、これは来場者アンケートなので、競技に参加する人は期間中の宿泊は想定されると思いますが、来場者は県内や近隣から来ると想定され、宿泊費に関してはそんなに大きくないかもしれない。また、母集団の把握に関し、実際の人数を把握するタイミングと、経済波及効果を出すタイミングが大事かと思いますが、集計するタイミングはどうでしょうか。

(ねんりんピック課) 来場者数の速報値は大会4日目に出す予定となっており、その後確定値を出します。

(居城委員) 経済波及効果の算定に際し、速報値や確定値の値をダイレクトに使用することができるということでしょうか。

(ねんりんピック課) そういうことになります。

(土屋副会長) 関連して、諮問案件ー2頁「県統計調査の概要」について、一般来場者アンケートは、報告者の選定方法を無作為抽出としていますが、おそらく無作為抽出ではないと思います。また、報告者数を4,000人としていますが、この数字の根拠を教えてください。

(ねんりんピック課) 大まかな想定として、交流大会、イベント会場、総合開会式・閉会式と、アンケート集められる機会が4つあります。まず、交流大会の会場は、全部で45ありまして、それぞれ開催日数が違いますが、1日あたりの調査票回収数を20枚程度と見込んでいます。そうすると、

交流大会で1,700集めまして、その他のイベントで、2,300集めたいと考えています。会場毎に数を刻んで積み上げた結果として、4,000という数字を目標のゴールとして設けさせていただいています。

(土屋副会長) 性別・年齢を組み合わせますと、性別が2区分、年齢が8区分で、合計16区分ですけれども、4,000を16で割ると、250人ずつになります。さらに、それを会場に分けていくと、益々少なくなっていくので、本当に4,000人で十分なのかというところと、加えて、どういう形で4,000を確保されるのかという点が気になりました。4,000まで確保できたら終わってしまうのか、4,000を超えても確保し続けるのでしょうか。

(ねんりんピック課) 4,000というのは、目標値として設定させていただいているので、4,000を超えても、5,000、6,000と集められる分については、有効回答数として、集めたいと考えて設定しています。

(土屋副会長) 逆に4,000に届かなかった場合はどういう対策を取られるのでしょうか。

(ねんりんピック課) 4,000に届かない場合は、すごく怖い部分があり、QRコードの活用も積極的に取り組みたいと考えてはいたのですが、確かにご指摘のとおり、大会終了後に、事後的に配布や回収をするということは、今のところ予定していません。

(平湯委員) 先ほどから、4,000という値が出てきていますが、前回大会の回答者数が4,068人だったため、そこから来ているのではないのでしょうか。今回、母集団の大きさが前回50万人から60万人に増加するため、4,000が妥当な値なのかどうか考える必要がありそうです。また、併せまして、大会参加者は今回は全数回答になっていますが、こういった想定は難しいのではないのでしょうか。

(伊藤会長) 持ち帰ってご検討いただくということで良いのでしょうか。

(ねんりんピック課) はい。

(伊藤会長) さらにもう1点、コロナに対する思い入れは人によって千差万別で、諮問案件-6頁を見てみると、【記載台のイメージ】が載っていて、筆記用具が置かれています。まず、ここに消毒液を置くというスペースがないですし、筆記用具の消毒の有無を気にされる方も多くいらっしゃる。若い方はQRコードでご自身のスマホから回答されるので良いかと思えますけれども、先ほど土屋委員もおっしゃいましたが、おそらく高齢者の方は紙で回答される場合が多く、筆記用具の消毒の有無などは、答えてくれる人が多いか少ないかを分けると思うので、そちらについてもご配慮いただけますか。

(ねんりんピック課) いわゆる使い捨ての筆記用具もそういう心配や懸念があって、直接私たちがお願いしているボランティアについては、ある程度、手作業で消毒していただくというのものもあるし、交流大会の会場については、1本1本消毒できるかというところもあるので、そちらについては

鉛筆を配って対応しようかなと考えています。

(伊藤会長) モノからは移らないという話ではあるのですが、いろいろなお客様がいらっしゃるので、ご配慮をお願いします。

(中村委員) 諮問案件－21頁「参加者アンケート」の質問6（1）について、選択肢に「その他」がなくてよいでしょうか。また、神奈川県を訪れていても近隣の都県に観光に行く場合もあると思いますが、そういう方たちの回答する選択肢がありません。神奈川県内の観光しか回答できないので、それで良いのかなと思いました。

(ねんりんピック課) 所属に持ち帰って検討したいと思います。

(土屋副会長) 2点あるのですが、まず、先ほど中村委員の仰っていた諮問案件－10頁目の質問4の選択肢が対照になっていないということ。選択肢「2 良い」に対応するのが「5 良くない」になっていて、「1 大変良い」に対応するのは「大変悪い」だが、選択肢にないので、併せてご検討いただければと思います。もう1点は、調査票全体に共通のことですが、一番はじめの趣旨のところ、何のためのアンケートなのかという時に、「今後の大会運営の参考にするため」と書いてありますが、もう一つ「経済波及効果の推計のため」という目的がありますので、その点も併記していただければ良いかと思います。

(伊藤会長) 最初の趣旨のところに明記すれば、質問の部分に記載する必要はありませんよね。

(土屋副会長) そうですね。

(伊藤会長) 質問は出来るだけ簡単な方が多分答えやすいと思うのですよね。

(土屋副会長) 何のためにデータを使って、どういう風に使うのかを明記するという点で、最初の趣旨のところに明記した方が良いと思います。

(中村委員) この調査の結果は、次の大会の開催地のある自治体に送るのですか。

(ねんりんピック課) 送ります。私たちも前回大会の報告書を持っています。どこで経済波及効果が分かるかは分からないですが、ねんりんピックは地方で開催することが多いので、この大会で経済波及効果がどれくらいかということは聞かれていることが多い。ですので、こういう報告書でみなさん経済波及効果を推計しているので、自分たちの経済波及効果に資するということと、この大会の報告書の結果がどこまで次の大会に活かされるかは分かりませんが、延々と同じ苦労というか引き継ぐためにあります。

(平湯委員) 諮問案件－3頁「実施要領」の「2 調査の目的」に、行動変容と書かれていますが、行動変容というと、通常は、今までの行動がこのようであり、あることをきっかけにこのような

行動をとるようになりました、ということだと思います。前回の調査では、「普段取り組んでいることは何ですか」「これから取り組みたいことは何ですか」の2つが調査項目にあったのですが、今回調査からは無くなっています。実際にどの調査項目で行動変容を具体的に把握するのでしょうか。行動変容という表現でよいのでしょうか。

(ねんりんピック課) 行動変容という言い回しについては、ご指摘いただいたとおり、表現を選びきれなかったという側面があると思います。ただ、質問の意図としては、大会を通じて取り組んでみたいこととか、どういう風に感じたかということをお聞きしたいという趣旨なので、表現を変える必要があると考えます。質問自体はこのままとさせていただきたいと思います。

(平湯委員) 前回の質問内容や表現をご確認いただくと良いと思います。

(山北委員) お聞きしたいことは今までで粗方分かったのですけれども、読んでいて気になったところをお伝えできればと思います。

まず、来場者アンケートですが、調査の趣旨の3行目「このアンケートは、この大会に対する皆様の御感想や御意見をお伺いし」とあり、すごくくだいなと思いました。「御感想や御意見をお伺いし」という日本語が良いのかどうか見ていただければと思います。

また、電子回答と紙回答の書きぶりが違うのが少し気になりました。例えば、来場者アンケートの紙媒体ですと、質問2「どのように「ねんりんピックかながわ2022」を知りましたか」というように、「ねんりんピックかながわ2022」が延々とどの質問にも続いていますけれども、オンラインの方は「どのように大会を知りましたか」とまとめていますので、紙媒体の方は字が多く詰まっている印象がとても強いので、「大会」にまとめても良いのではないかと思います。

次に、質問4について、皆さん仰っているとおり、先ほどご説明の中でも「大会の成果を測る質問」と言う風に仰っていましたが、大会の成果がこれで測れるのか、「大変良い」「良い」であれば、この大会はうまくいったというまとめになるのか、大会の成果を測るのにこれで良いのか疑問です。加えて、(2)で「係員やボランティアの対応」とありますけれども、なぜここで係員やボランティアの対応だけが抽出されているのか疑問に思いました。

次に、質問8ですけれども、平湯委員のお話にもありましたとおり、この質問では変化は捉えられないと思いましたので、そこはご検討ください。また、この書きぶりで、例えば(1)「かながわパラスポーツ」と書いていて、その下の点線の中に詳細な説明がありますけれども、この下のところまで目がいけないと意味が分からなかったもので、例えば※1をそれぞれに付ける、「かながわパラスポーツ」の後に※1を付けて、点線の中の「かながわパラスポーツ」の前に※1を付ける。

「未病改善」についても同様に、紐づける工夫があった方が分かりやすいと思います。(2)も同様で、「2 文化活動」の活動名のところに、下の点線の中に書いてある文化活動を書いてほしいのであれば、何か紐づけないと、点線枠囲みの中の意味が伝わりにくいと思います。

質問9についても、何が聞きたいのかよく分からなくて、例えば、(1)の選択肢1～3は場所、4・5は種目となっていて、なぜ4・5だけこの種目なのかなというのが分からない。「6 その他」に回答が多く集まっていく想定なのでしょう。この質問は不思議な印象で、どうすれば良いかというのは持ち合わせていません。ただ、アンケートを答える側としてはどうかなと、ざっと読んだ中では少し違和感がありました。私からは以上です。

(伊藤会長) いかがでしょうか。

(ねんりんピック課) 意見は全般的に検討させていただきたいと思います。文言を紐づける点については、ご意見を頂きましたので、分かりやすくしたいと思います。質問9(1)も検討させていただきます。

(伊藤会長) 質問9(1)については、県内でするスポーツやアクティビティといたら何をイメージするかということかなと思いますけれど、神奈川県らしいアクティビティって何?と聞きたいわけですよ。

(ねんりんピック課) そうです。

(中村委員) そうすると、選択肢「1 山(登山、ハイキング)」の山、「2 海(サーフィン)」の海、「3 川(カヤック、ラフティングなど)」の川がいないのでは。

(伊藤会長) そうですね、「1 登山、ハイキング」「2 サーフィン」「3 カヤック、ラフティング」というように。これもサンプルによって答えが変わってきてしまいそうな気がします。

土屋先生、先ほど諮問案件-2頁で、無作為抽出ではないよねというお話がありましたけれども、正しくは何と書けば良いでしょうか。無作為抽出というのは標本に正しく選ばなくてはならないのですよね。ただ、そういう風にはしていないので。

(土屋副会長) 何とも言いようがないと思いますが、他の案件ではどういう表現を使っているのでしょうか。例えば、男性の20代は○人、女性の20代は○人などと決めておいて、その人数を確保するというのを割当法と言いますが、先ほどのお話から考えますと、会場ごとに割り当てているので、その点に着目しますと割当法かなと思います。詳細が分からないのですが、ただ、多分詳細をお伺いしても何法という表現はないと思います。

(伊藤会長) では、その辺は少しご検討いただきたいと思います。あと、諮問案件-22頁の質問6(3)の選択肢「12 鎌倉殿の13人関連の～～」の鎌倉殿の13人は固有名詞なので「」をしても良いのかなと思います。別にNHKドラマっていう風にして、NHKの宣伝をする必要はないのですが、10年後くらいにこのアンケートを見直したときに、鎌倉殿の13人って何?となってしまうと思いますので「」を付けた方が良いかと思いました。

(居城委員) 諮問案件-2頁「県統計調査の概要」の調査の目的に、「ねんりんピックかながわ2022の大会成果の検証及び経済波及効果の推計」と書かれているので、調査票の調査の趣旨にも、これに近い表現の文言を書く。「この目的以外に使用することはありません」のこの目的をしっかりと明記する、逆に言うと、「御感想や御意見」などはスペースが無い中で、そんなに重要なものではないと思います。

次に、諮問案件－10頁の「来場者アンケート」質問6の、「「ねんりんピックかながわ2022」の経済波及効果の推計のため、あなたが支出した費用の合計額についてお答えください。」という表現は少しぶっきらぼうすぎると感じる。諮問案件－22頁の「参加者アンケート」質問7では、「「ねんりんピックかながわ2022」の経済波及効果の推計のため、本大会に際して、あなたが支出した費用の合計額についてお尋ねします。～～」となっているため、「来場者アンケート」についても、「本大会に際して」という文言は入れなくてはいけない。また、「推計のため」というのはこちらの話の表現になっている。答える人の側から見て何の目的で支出したものを書くのか、明確にしなければならない。

先ほどから意見が出ている、諮問案件－11頁「来場者アンケート」の質問7はどちらかというと運営目線になっている。広報という言葉自体が運営する側の言葉になっている。質問を入れるとしても、もう少し来場者の視点に立った言葉の使い方をしなければいけない。

あとは、調査票の趣旨の部分に、調査の目的として、「今後の大会運営、健康づくりの参考」とありますが、神奈川県の実策として、健康づくりの実策のためという色彩が強いため、神奈川県のためという言葉も部分的に入れてもよいかと思う。先ほど、諮問案件－21頁「参加者アンケート」の質問6（1）について、どこに行くか聞いていないという意見もあったが、それは県内の観光を聞くためであり、次の大会につなげるという意味では、あまり入れるとやりすぎかもしれないが、県のためという視点が入ってないと違和感があるという気がします。

(伊藤会長) 今の居城委員の意見を踏まえて、ご検討いただければと思います。

そのほか、ご意見等ありますでしょうか。

それでは、ないようでしたら、諮問依頼課は委員から出された意見を十分検討していただいて、必要に応じて会長である私に報告いただくということを条件にこの調査を実施することで皆様、了承いただけてよろしいでしょうか。

<一同了承>

(伊藤会長) はい、それでは了承することにいたします。答申につきましては、本日の審議を踏まえたうえで、会長である私に一任ということでよろしいでしょうか。

<一同了承>

(伊藤会長) はい、では、ありがとうございます。それでは、諮問課の皆様はご退出いただいて結構です。お疲れ様でした。

(諮問課) ありがとうございます。